

概観

【政治・社会】

- ・ プレヴネリエフ大統領が「政治的協議月間」の一環として各党党首との会談を継続。
- ・ ボリソフ首相は、過去に多くの高官が追加的に受け取っていたボーナスの返還を求めるとともに、返還に応じない高官を解雇すると発表。

【経 済】

- ・ ベレネ原発建設計画中止が決定。
- ・ トライコフ経済・エネルギー・観光相の辞任にともない、ドブレフ同次官が新たに経済・エネルギー・観光相に指名され、国民議会で承認された。

【我が国との関係】

- ・ 東日本大震災一周年写真展「東北：明日への希望」の開催
- ・ 日本学術会議とブルガリア科学アカデミーが協力協定に署名

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

◆高官ボーナス返還要求

▶ 2月29日、ボリソフ首相は過去数年に亘り多くの高官が追加的ボーナスを受け取っていたことが明らかになったことを受け、その返還を求めるとともに返還に応じない高官を解雇すると発言したが、8日、現政権の高官（閣僚及び知事）が2009年から2011年までに受け取り、返還したボーナスの総額は約60万3千レヴァとなったと発表された。返還を拒否し解任された高官はただ一人、環境省官房長である。また8日、国民議会は公務員の追加的手当を制限する公務員法改正案（第一読会）を可決した。同日、ボリソフ首相はテレビのインタビューでボーナスの返還要求はポピュリスト的措置であると認めた。

◆プレヴネリエフ大統領の各党党首との会合

▶ 「政治的協議月間」の一環として各党党首との会合を行っているプレヴネリエフ大統領は7日、権利と自由のための運動（MRF）ドガン党首と会談した。ドガン党首は、経済成長、雇用、投資、農業開発対策の緊急性を指摘した他、ベレネ原発建設は誤りであったと指摘した。また、17日にはGERB党首ボリソフ首相と会談、ボリソフ首相は辞任したコンスタンティノフ保健相の後任候補のデシラヴァ・アタナソヴァ国民議会保健委員長、辞任したトライコフ経済・エネルギー・観光相の後任のデリヤン・ドブレフ新大臣を紹介した。22日にはアタッカ・シデロフ党首と会談した。

◆ブルガリア社会党（BSP）

▶ 5日、パルヴァノフ前大統領は、ブルガスにお

いてブルガリア社会党（BSP）党首選出馬宣言を行った。スタニシェフ現党首は、その数時間前に、パルヴァノフ前大統領に対し出馬の意向をはっきりさせるよう求めていた。7日、BSP全国評議会は第48回党大会を5月19日及び20日に国立文化宮殿で行うと決定、党首選挙もそこで実施されることになる。

◆新ナショナリスト政党とアタッカ

▶25日、新たなナショナリスト政党として、「新民主党」が6月2日に結成される旨発表された。中心となるのは、アタッカのシデロフ党首の前妻のカプカ・ゲオルギエヴァとその息子で欧州議員のディミタル・ストヤノフである。また、アタッカから更に議員が離脱する可能性もある。

◆クネヴァ元大統領候補

▶12日、クネヴァ元大統領候補は、「安定と発展のための国民運動」(NMSP)を離脱すると発表、ただし、政界を引退するのではなく、自身の設立した市民運動「市民のブルガリア」が政党になる可能性に言及した。

◆新大使候補と大使会議

▶閣僚評議会は13日、追加7名の大使候補（スイス、ブラジル、グルジア、スウェーデン、アルゼンチン、ポーランド、クロアチア）を決定した。スイス（BSP所属議員）、クロアチア（ヤンボル県知事）以外はキャリア外交官である。また、28日には、追加4名の大使候補（アルメニア、フィンランド、アゼルバイジャン、アフガニスタン）を決定した。

▶26日から27日、ムラデノフ外務大臣は、外務省において大使会議を開催、70名近くの現大使及び新大使が参加した。

◆新外務次官

▶26日、ボリソフ首相は、英国大使に転出したディミトロフ外務次官の後任として、前ポーランド大使のイヴァン・ナイデノフ氏を外務次官に任

命した。

2. 外政

◆ボリソフ首相：カタール訪問（3月13～15日）

▶13～15日、ボリソフ首相は、ツヴェタノフ副首相兼内相、ムラデノフ外相、トライコフ経済・エネルギー・観光相（15日解任）、アンゲロフ国防相、ナイデノフ農業相、パヴロヴァ地域開発相、モスコフスキ運輸・通信技術・情報相及びファンダコヴァ・ソフィア市長といったGERB（「ブルガリアの欧州における発展のための市民」）現政権の主要閣僚ほぼ全員を帯同してカタールのドーハを訪問。政治だけでなく、経済・投資、エネルギー関係、地域協力及び文化等の多岐に渡る分野を協議した。

▶ボリソフ首相とハマド・ビン・ジャーシム・カタール首相兼外相の会談では、カタールが観光、インフラ、農業の各分野でブルガリアへ投資することに合意した。ボリソフ首相は、ブルガリアが現在困難な経済情勢下にある中でカタールがブルガリアに投資することに対して謝意を表明した。

◆ボリソフ首相：トルコ訪問（3月20日）

▶20日、ボリソフ首相は、ツヴェタノフ副首相兼内相、ムラデノフ外相、ドブレフ経済・エネルギー・観光相代行、パヴロヴァ地域開発相、モスコフスキ運輸・通信技術・情報相及びラシドフ文化相等の主要閣僚を帯同してトルコのアンカラを訪問。第一回ブルガリア・トルコ高級協力委員会会合へ出席した。

▶ボリソフ首相以下ブルガリア代表团とエルドアン・トルコ首相以下トルコ側代表团は、両国間の高級協力委員会の設立文書に署名の後、経済、運輸、観光、文化、環境、防衛産業及び放送等の分野に関する17の協力合意文書に署名した。また、両国代表团は、バルカン情勢及び中東情勢を含む両国の関心事項も協議した。

▶ボリソフ首相は、エルドアン首相との共同記者会見において、両国間のガス相互連結は両国関係の最大の成果となり得るとし、両国の天然ガス網

は5月頃までに完結させる旨述べた。一方、エルドアン首相は、昨年の両国間貿易額が約40億ドルであったことに触れ、両国経済関係を更に発展させるべく努力する旨述べた。また、同首相はブルガリアがトルコにとってバルカン半島における最重要貿易パートナーである旨述べた。

◆クラウス・チェコ大統領：ブルガリア訪問
(3月27日)

▶27日、クラウス・チェコ大統領がブルガリアを訪問し、プレヴネリエフ大統領、ツヴェタノフ副首相兼内相及びツァチェヴァ国民議会議長と会談した。なお、クラウス大統領は、本年1月のブ

レヴネリエフ大統領の就任以降、ブルガリアを訪問した最初の国家元首となった。

▶両大統領の会談では、EU内における両国間協力等を協議。プレヴネリエフ大統領は、EU及びNATOにおける両国の政策協力等が重要である旨指摘した。また、両国間には農産品及びワイン、エネルギー効率化、低炭素経済、水資源利用の分野で協力できる大きな見込みがある旨述べた。

▶クラウス大統領は記者団に対し、チェコは「ブ」のシェンゲン加入を全面支持する旨表明した。一方、プレヴネリエフ大統領は、ブルガリアが将来的にシェンゲン加入することは明白であるとし、9月には不公平は解消されると信じる旨述べた。

=====

経 済

1. マクロ経済

◆財政準備金、40億レヴァに減少

▶1日、財務省は1月末時点の財政準備金が40億レヴァとなり、昨年12月末時点より10億レヴァ減少した旨発表した。農業生産者への支払等国内での歳出、及び対外債務の支払い等が減少の主な要因となった。また、1月における財政収支は2億9,780万レヴァの赤字となった。

◆2011年GDP、GDP成長率

▶6日、国家統計局は2011年ブルガリアのGDP速報値について、752億6,500万レヴァとし、対前年比1.7%増となった旨発表した。

◆失業率（2月）

▶9日、雇用庁は2月の失業率について11.5%となり、1月より0.4%増加した旨発表した。約3万6千人の新規失業者登録があり、うち約半数の17,514名が民間部門の解雇による失業者であった。

◆2011年、対EU貿易

▶12日、国家統計局は、2011年の対EU貿易収支（輸出FOB－輸入CIF）について、2

2億9,800万レヴァの赤字となった旨発表した。

▶輸出は前年と比べ33.6%増加し、約247億レヴァとなった。主な輸出国は、ドイツ、ルーマニア、イタリア、ギリシャ、ベルギーであり全体の67.4%を占めた。輸入は前年と比べ22.8%増加し約270億レヴァとなった。

◆貿易（1月）

▶12日、国家統計局は1月の貿易収支（輸出FOB－輸入CIF）について5億930万レヴァの赤字となり、対前年同期より赤字額が3億990万レヴァ増加した旨発表した。

▶輸出は対前年同期比10.2%減となり、約28億レヴァ、輸入は対前年同期比0.2%減となり、約33億レヴァであった。

◆対内直接投資（FDI）（1月）

▶15日、国家統計局は、1月のFDIについて約4,420万レヴァであり前年同期（1億8,600万レヴァ）の約4分の1となった旨発表した。最大投資国は、韓国で約1,660万レヴァ、次いでオランダ（630万レヴァ）、ロシア（430万レヴァ）の順となった。

◆賃金増加率

▶19日、国家統計局は2011年第4四半期の1時間あたりの賃金について、対前年比9.7%増となった旨発表した。産業分野が6.6%増、サービス分野が17.4%増、建設分野が9.6%増であり、最も上昇率が大きかったのは情報・通信分野で36.8%増であった。

2. 経済政策

◆ボリスフ首相、EU財務協定に署名

▶2日、ブリュッセルで開催されたEU首脳会合において、ボリスフ首相はEU財務協定に署名した。同協定にはEU27か国中イギリス、チェコを除く25か国が署名した。

3. 産業

◆ベレネ原発建設計画中止が決定

▶28日、政府は閣僚評議会でベレネ原発建設計画を中止する決定を行った。決定後、政府はドブレフ経済・エネルギー・観光大臣をモスクワに派遣し、ブルガリア政府の意向を伝えた。ベレネ原発建設計画を巡っては、2009年の政権交代後、具体的な進捗が見られない状態が続いてきたことから、政府がプロジェクトの推進、中止のどちらを選択するのかが注目されてきた。

▶今回の中止決定はブルガリアにとって「ブルガス・アレクサンドロポリス石油パイプライン計画」に続く大型プロジェクトからの撤退である。なお、ロシア主導で推進している「サウス・ストリーム天然ガス・パイプライン計画」について、ブルガリア政府は推進していくとの立場を引き続き表明している。

▶ベレネ原発建設計画のために用意された土地の有効活用策として、ガス発電所の建設などが議論されているほか、ベレネ原発用に発注され、まもなく納品可能となるロシア製原子炉については、政府はコズロデュイ原発7号基新設計画として転用するアイデアを打ち出しているものの、プロジェクトの実現には設計調査等を含め少なくとも5年以上の時間を要するものと見られている。

◆再生可能エネルギー法改正案可決

▶28日、国民議会で審議されていた再生可能エネルギー法改正法案が第二読会で可決され、改正法が成立した。合計4700MW規模とされる再生可能エネルギー関連プロジェクトにより国内送電網が逼迫している事情を踏まえ、無秩序な送電網への接続を制限することが法改正のねらいとされる。再生可能エネルギー法は2011年5月に新法として公布されたが、わずか半年で改正法案が提出され、国民議会の審議が続いていた。

◆ロシア、ブルガリア向け天然ガス価格の引き下げに同意

▶30日、ドブレフ経済・エネルギー・観光大臣は、訪問先からのモスクワから帰国した直後にボリスフ首相と共同記者会見を開き、4月1日からロシアがブルガリア向け天然ガス販売価格を1.1%引き下げることと同意したと発表した。ガス価格引き下げの見返りとして、ブルガリアは「サウス・ストリーム天然ガス・パイプライン計画」に関する手続の簡素化に尽力することになるという。

4. その他

◆ブルガリア議会の新保健相・経済相の承認

▶21日、国民議会は、辞任したコンスタンティノフ保健相の後任にデシスラワ・アタナソフ、トライコフ経済・エネルギー・観光相の後任にデリヤン・ドブレフ氏を充てる人事を承認し、両氏は就任宣誓した。

◆ブルガリア・エネルギー・ホールディングス（BEH）社長の交代

▶25日、ドブレフ経済・エネルギー・観光相は、BEH社長を現職のヨルダン・ゲオルギエフ氏に代え、国営電力公社（NEK）社長、ミハイル・アンドノフ氏を新たに任命した。

=====

我が国との関係

◆ 東日本大震災一周年

▶15日、在ブルガリア日本大使館は、東日本大震災一周年に際し追悼・復興レセプションを開催、伊藤大使は多くのブルガリア人の支援に対する謝意を述べた。ツァチェヴァ国民議会議長を始め国民議会議員、各国大使、多くのブルガリア人が出席した。

▶20日、在ブルガリア日本大使館は、プロヴディフ歴史博物館にて東日本大震災一周年を機に、支援への謝意を伝え、我が国の復興した姿を紹介することを目的とした写真展「東北：明日への希望」のオープニングを開催した。この写真展では、震災前、震災直後、復興しつつある現在の写真を展示すると共に、東北地方の美しい風景や建築物等の展示も行うもの。今後ヴェリコ・タルノヴォ市、ルセ市、ヴァルナ市、

カザンラク市それぞれで開催の予定。

◆日本学術会議とブルガリア科学アカデミーが協力協定に署名

▶30日、日本学術会議の大西隆会長とブルガリア科学アカデミーのニコラ・サボティノフ総裁はソフィアで両団体間の協力協定に署名した。同協定にはエネルギー効率やナノテクノロジー等4つの重点協力分野が挙げられており、今後両国研究機関の間での科学技術交流拡大が期待される。

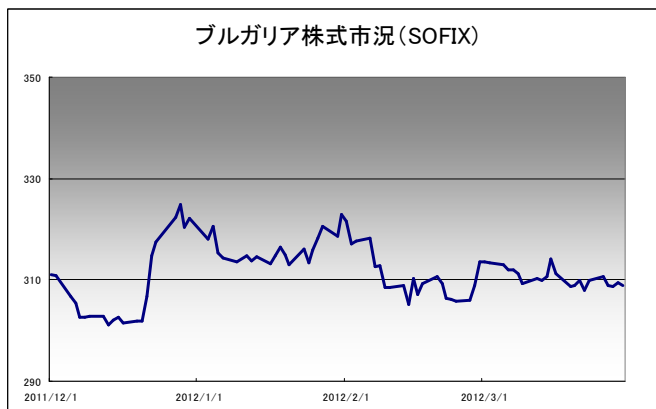
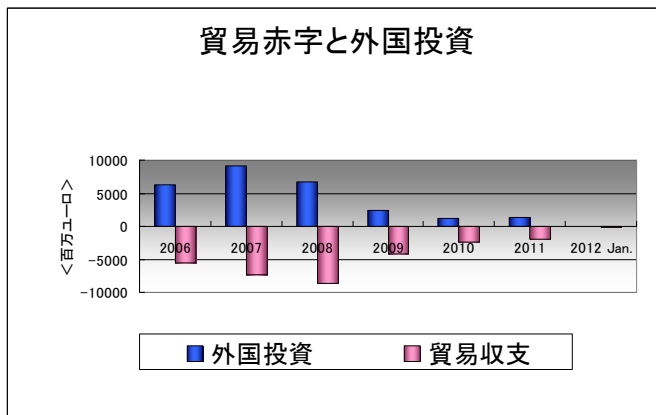
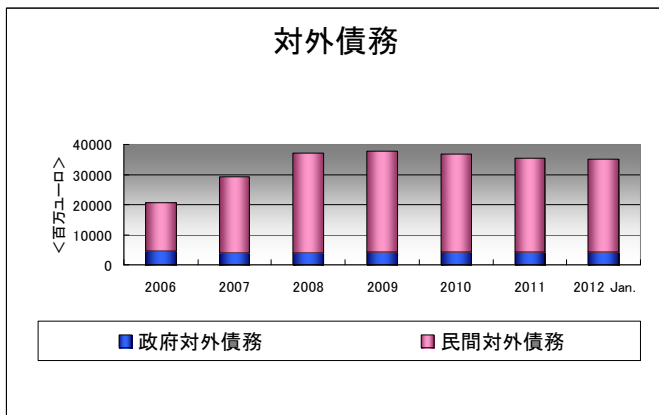
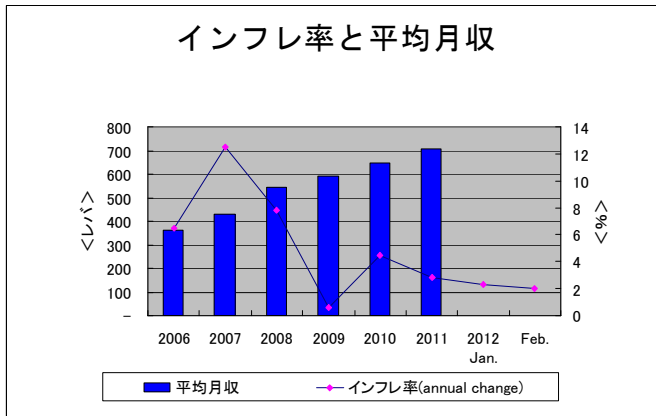
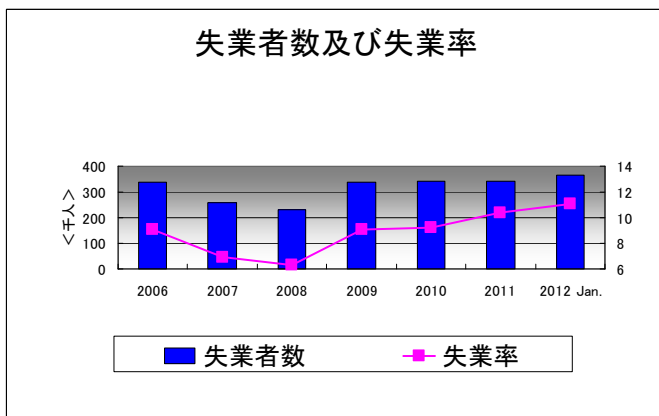
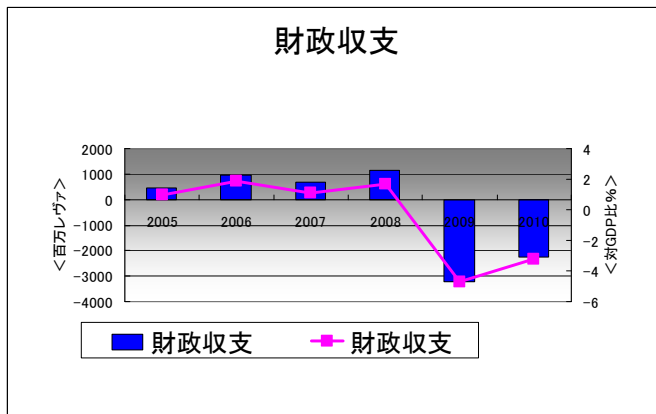
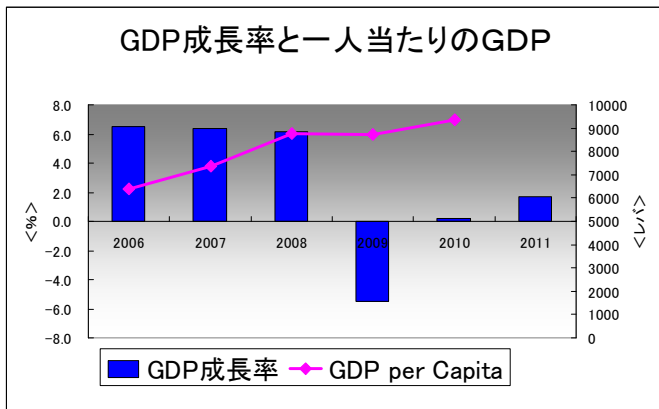
ブルガリア内政・外交の動き（3月）

在ブルガリア大使館

1（木）	☆プレヴネリエフ大統領：アフガニスタン訪問（2月29日～） ☆ボリスフ首相：欧州理事会出席（於：ブリュッセル）（～2日） ☆リーベルマン・イスラエル外相：ブルガリア訪問（～2日）
2（金）	
3（土）	
4（日）	
5（月）	●パルヴァノフ前大統領は、ブルガスにおいてブルガリア社会党（BSP）党首選出馬宣言
6（火）	
7（水）	●「政治的協議月間」の一環としてプレヴネリエフ大統領がMRFドガン党首と会談 ●BSP評議会は第48回党大会を5月19日及び20日に行うと決定（党首選挙も実施）
8（木）	●現政権の高官（閣僚及び知事）が2009年から2011年までに受け取り、返還したボーナスの総額が約60万3千レヴァとなったと発表
9（金）	
10（土）	
11（日）	
12（月）	●クネヴァ元大統領候補は、NMSPを離脱すると発表
13（火）	☆ボリスフ首相以下主要閣僚：カタール訪問（於：ドーハ）（～15日） ●7名の大使候補（スイス、ブラジル、グルジア、スウェーデン、アルゼンチン、ポーランド、クロアチア）を決定
14（水）	
15（木）	
16（金）	●コンスタンティノフ保健相、トライコフ経済・エネルギー・観光相辞任
17（土）	●「政治的協議月間」の一環でプレヴネリエフ大統領がGERB党首ボリスフ首相と会談
18（日）	
19（月）	
20（火）	☆ボリスフ首相以下主要閣僚：トルコ訪問（於：アンカラ）
21（水）	●アタナソヴァ新保健相、ドブレフ新経済相が国民議会で承認、両大臣が就任宣誓
22（木）	●「政治的協議月間」の一環でプレヴネリエフ大統領がアタッカ・シデロフ党首と会合
23（金）	☆ムラデノフ外相：EU外相理事会出席（於：ブリュッセル）
24（土）	
25（日）	●新たなナショナリスト政党として、「新民主党」が6月2日に結成される旨発表
26（月）	●ボリスフ首相は、イヴァン・ナイデノフ前ポーランド大使を外務次官に任命 ●外務省において大使会議を開催 ☆ポポヴァ副大統領：ブリュッセル訪問
27（火）	☆クラウス・チェコ大統領：ブルガリア訪問
28（水）	
29（木）	
30（金）	☆プレヴネリエフ大統領：伊訪問（於：ローマ） ●4名の大使候補（アルメニア、フィンランド、アゼルバイジャン、アフガニスタン）決定
31（土）	

ブルガリア経済指標 (2012年3月)

出所：統計局，中銀，ソフィア証券取引所



ブルガリア主要経済指標

<GDP成長率と一人当たりのGDP>

	2006	2007	2008	2009	2010	2011
GDP成長率 (%)	6.5	6.4	6.2	-5.5	0.2	1.7
GDP per Capita (BGN)	6411	7379	8753	8735	9362	

<財政収支>

	2006	2007	2008	2009	2010
歳入 (million BGN)	960.5	698.7	1156.8	-2959.5	-2208
財政収支 (% of GDP)	1.9	1.2	1.7	-4.3	-3.1

<失業者数及び失業率>

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 Jan.	Feb.
失業者数 (千人)	338	256	232	338	342	342	366	376
失業率 (%)	9.1	6.9	6.3	9.1	9.2	10.4	11.1	11.5

<インフレ率と平均月収>

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 Jan.	Feb.	Mar
インフレ率 (%)	6.5	12.5	7.8	0.6	4.5	2.8	2.3	2.0	1.7
平均月収 (BGN)	360	431	545	591	647	707			

<対外債務>

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 Jan.
政府対外債務 (million EURO)	4547.3	4092.3	3908.7	4172.5	4287.5	4224.6	4158.6
民間対外債務 (million EURO)	16143.6	24924.5	33203.7	33635.6	32392	31160.0	30993.0

<貿易赤字と外国投資>

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 Jan.
外国投資 (million EURO)	6222	9052	6728	2436.9	1208.5	1341.2	44.2
貿易収支 (million EURO)	-5562	-7245	-8597	-4174	-2413	-1974.6	-176.4
輸出 (million EURO)	9,466	12,012	13,512	15,204	11,787	20,227	1,432
輸入 (million EURO)	13,876	17,574	20,757	23,801	15,889	22,201	1,608